

エルタテハは1962年8月、七島八島を下諏訪に住んでいて筆者に信州での蝶採集行きを勧めてくれた故津田進さんに案内してもらった際、霧が峰の和田峠から落合へと林道を下りる途中で、野鳥に捕獲されてしまう瞬間を目撃したのが初の出会いだ。

次の日には茅野からバスに乗り、到着した登山口の名前は記憶していないが、八ヶ岳の中山峠まで登山。きつい登りの途中では津田さんが冷たい雪解け水が飲めるところで休憩タイムをとってくれるなどして進み、路面で日向ぼっこをしていたクジャクチョウが驚いて飛び立つ光景も楽しめた。クロユリ平をすぎると中山峠で、白樺などの林をくぐるように下った途中からいきなり右の道なき樹林帯へと入り込み、林の中を横切るように進んだかと思うと、とつぜん切り立った広大な急斜面のスソ部分に広がる花畑へと出る。ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ、シータテハなどが多く、花を訪ずれることは少ないはずのエルタテハもアザミ類の蜜を夢中で吸っている。このときの初採集個体が残っていてラベルには中山峠とあるが、実際の採集地はこの八ヶ岳斜面のお花畑だ。



Aug. 3, 1962 八ヶ岳中山峠 初採集エルタテハ

再び信州のチョウを楽しめたのが1968年8月。美ヶ原山本小屋周辺の黄色い花が咲く一角にクジャクチョウとともに花蜜を吸うシータテハが多く、エルタテハの採集標本もあるが、こちらは花畑ではなく駐車場まわりの路面にいたのだと思うが確実な記憶はない。



Aug. 10, 2002 麦草峠 エルタテハ



Aug. 20, 2003 塩山市上日川林道



50827 月夜沢林道 エルタテハ



80820 白駒林道 エルタテハ

産地ごとの標本を作成しているが、エルタテハはどこでも多数頭をみることは少ない。2003年8月の塩山市上日川林道や、珍しく大発生をした2014年はしらびそ高原、大鹿村の分杭峠などでは多くの個体に出会えた。シラカバやダケカンバの樹肌にとまる姿を撮影できたらと思うが、2014年7月のしらびそ高原での記録のように防護壁からの染み出し水を訪れる場面くらいしか撮影チャンスがえられていない。



エルタテハの学名は *Nymphalis l-album samurai* で、命名者の Fruhstofer がどういういきさつで *samurai* という亜種名をつけたのか、今井彰著「帝揚羽蝶 命名譚」(草思社、1996)のp.67-69に、Fruhstofer が1899年に約2か月間日本に滞在した際、横浜から長崎までの活動の過程で侍を想起させるなんらかのヒントをえたのではないかという興味のある推察が記されている。



裏面